

被災前、被災時、みらいの画像を見て防災意識高める 市議会総務委が石巻市で「防災まちあるき」を学ぶ



市議会総務常任委員会は2日、宮城県石巻市の一般社団法人「みらいサポート石巻」を訪れ、防災対策を学びました。

同法人は、行政や地域団体などと協力し、GISやAR技術を活用して、「現在・過去・未来」を伝える「石巻津波伝承AR」アプリを開発したところ。このアプリを活用した「防災まちあるき」は総務省の地域情報化大賞特別賞を受賞しました。

総務常任委員会の一行は、「みらいサポート石巻」事務所でのこのアプリの説明を受けたのち、被災した現場を歩いて、被災前の風景、被災した当時の状況、いまの姿を確認しました。港の

吉川区入河沢にあった「入河沢（いりこうぞう）城」は「文献に一度も登場したことのない幻の山城」（歴史家の花ヶ前盛明さん）です。

5日の歴史講演会と現地説明（いずれも「謙信公の郷振興協議会」主催）では、この入河沢城がとりあげられました。講師は花ヶ前盛明さん、吉川町史や自分の史跡紀行文などを引用し、熱の入った説明をしてくださいました。

城跡見学会では佐藤春雄さんと金井薫さんも加わって、案内役を務めてくださいました。私は今回も佐藤さんのグループと一緒に歩きました。

佐藤春雄さんと現地を歩き、解説を加えていただく中で、よくわかったのは、

入河沢城跡は山城を学ぶためには最高の場所

この入河沢城跡の魅力です。ほとんど知られていない小さな山城でありながら、堀切、土塁、虎口、切岸などの遺構がしっかりと残っていて、わかりやすいのです。特に敵を登らせないためにつくられた急斜面、切岸がよくわかります。山城の生命線はこの切岸だという理解が進むはず。佐藤春雄さんが、「入河沢城跡は山城を学ぶためには最高の場所だ。コンパクトで、機能もわかる。全体もわかる」と言われた意味がよく理解できました。

この日の現地解説では、堀切をはさんで合戦するときの状況がわかるように竹やりも用意されました。



堤防、元氣市、そして料理屋の小道などのポイントに立つと、アプリを操作するだけで被災状況を見ることができ、なかなか良く出来ていました。

職員さんの案内でまちあるきをしてからは、事務所で見交換させてもらいました。私が今回の視察で一番関心を持っていたのは、「自分は大丈夫」という日常性バイアス（思い込み）から抜け出すヒントを見つけたことが出来るかもしれないということでした。説明した職員さんは、「自分は大丈夫」から抜け出すことを、専門家の間では

スイッチが入るとか言っているが、我々もそれを動かせるものになりたいと思っっている。われもどうしたらいいかと思っっているが、突破口はひとつではないはず。だからいくつものプログラムをつくって人に響く方法を探っている。とのべていました。



【ノダケ】セリ科の多年草。漢字で「野竹」と書きます。草丈は1から1.5。花は黒色に近い暗紫色です。花期は9月～11月。10数年ぶりにこの花を見つけました。花言葉は、「愛の悲しみ」。9月24日、吉川区にて撮影。

総務常任委員会は石巻市での視察後、福島県二本松市で福島県農林連産直農業協同組合の営農型太陽光発電などの取組を学びました。また、山形県村山市では、木材チップを使って、これを原料にガス化して発電するという発電施設を見てきました。

はしづめ法一の
活動レポート

No.1879 2018.10.14
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/

ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一 検索

今年の夏の忘れられない思い出をひとつ。お盆前の一日、地元の人々がタケと呼ぶ尾神岳で行われたコンサートの話です。

パラグライダー練習場で「尾神岳サマーフェスティバル」と銘打って行われたコンサートは今回で三回目。出演したのは歌い手グループ、ラフベリーの二人です。

コンサートがスタートする前に地元の大潟、柿崎、吉川の太鼓集団、よさこいグループ、吉川踊り隊のみなさんが演奏や踊りを披露してくれました。これが下地になっていましたね。

コンサートが始まり半分くらい終わった頃だったでしょうか、何とはなしに目をステージからその逆方向へと移した私は、パラグライダー練習場の一番高いところ、てっぺんで数人の人たちが曲に合わせて大きく手を振っていることに気づきました。歌のリズムに合わせて、じつに楽しそうです。そのなかには上越マリオ団のマリオの赤い服が見えました。あとは吉川区の太鼓集団、「鼓舞衆」のメンバーらしき男性も二人ほど確認できました。

ステージからこのてっぺんまで一五〇メートルくらいあります。そんなに遠いところで彼らが盛んに手を振っている。この様子をみると、私もステージ前の観客席から離れて、てっぺんへ行ってみたくまりました。てっぺんからステージを見る風景はどんなだろうかという思いもありましたが、何よりも、そんな遠くにもステージの歌い手さんたちと心をつなげることができる、それを確かめたかったのです。

歩きはじめてから、ふと右脇をみると、一人のお母さんと二人の子どもさんもてっぺんに向かって歩き始めています。さらに、その後ろにはマリオ団のワリオも大きな体をゆっくり動かし歩いていて、

りませんか。みんな同じ気持ちだったんですね。うれしくなりました。

しばらく歩いたところで、黄色の羽を広げて、目の前の芝の上を飛んでいくバツタと出合いました。殿様バツタです。体長は五〜六センチあります。私は、デジカメを取り出し、バツタが羽を広げて飛ぶ姿を撮ろうとしましたが、いい写真にはなりません。バツタも曲に合わせて飛び回っていたのでしょうか。

さて、パラグライダー練習場のてっぺんです。ここにたどり着いて、日本海側を見ると、直江津の居多ヶ浜がよく見えました。眺めがとてもいい。ステージ上のラフベリーもステージ前の聴衆も小さくなって見えました。ステージ近くにある「みはらし荘」の階段のところにも何人かの姿が見えます。みんな、楽しんでるんですね。

てっぺんにいる仲間たちと一緒に手を振りながらしばらくステージを見つめました。これだけ離れていけば音が届かないことがあるかも知れない、そう思っていたのは私の間違いでした。音は小さくはなっても、しっかりと聴こえたのです。

ラフベリーの歌を聴きながら、てっぺんでは足を上げたり下げたりしてリズムに合わせている人がいました。団扇をおおぎながらじつと聴いている人もいます。それどころか、芝生の坂を転がる人もいました。まさに喜び満開という感じでしたね。

この日、コンサート会場に集まった人のなかには尾神と深いかかわりのある人が何人もいました。上越マリオ団のマリオもワリオも、もちろん私も。ラフベリーが最後の方で歌った母さんへの歌、「アナタがくれた温もり感じているから 今日また優しくなれる……」。歌を聴いていて、「ああ、タケに来て良かった」と思いました。

色はすべて青。使うシールはすべてマル。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。
消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月3日(月)	10月10日(水)
上越南消防署	0.047	0.050
上越北消防署	0.053	0.040
新井消防署	0.043	0.043
頸北消防署	0.047	0.040
頸南消防署	0.057	0.050
東頸消防署	0.040	0.040
高士分遣所	0.047	0.050
名立分遣所	0.053	0.053

社会福祉法人「みんなできろ」主催の上越アートプロジェクトを8日、観てきました。今回の会場は高田の浄興寺とリブレリアホール(本町4)でした。

2つの会場での作品はどれも力作ぞろい。滞在予定時間をはるかにオーバーしてしまいました。

使うカラーはすべて青。青色で描き出すデザインがこんなにも素敵だとは。「花卉」「おらじ」などいろんなテーマでハガキ大の絵を描き、それへの思いをコメントで書く。作者の佐藤葉月さんとは会場でおしゃべりもできました。1枚の紙に大小様々な丸いシールを貼りつけ、様々な作品をつくりだしていく大塚洗さんの作品も見事でした。改めてマルの世界のやさしさと美しさを確認できました。このほか、ペン1本を使って「鳥目線」で風景を丁寧に描く辻勇二さんの作品などを楽しむことができました。惹きつけられた作品の共通項は「ひとつのことを大事にする」。とても素敵な作品展でした。

